

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里 A棟		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0175800358-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自尊心やプライバシーを維持しながら本来その方が持っている残存機能を生かし「その人らしく」生活を送ることができるよう努めています。四季に応じてホーム主催の地域の方が参加できる行事に地域の人たちとの交流で信頼されるホームを目標にしています。隣にはデイサービスが併設されており時々交流を持っています。又、災害や緊急時に対しての支援体制が整備されています。職員も日々試行錯誤を重ねながら気付きや学びをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほのかの里」は、JR駅から車で5分ほどの静かな住宅地にある2ユニットの事業所である。近くに「栗山公園」があり、桜の花を見たり、散歩して季節を感じることができる。近隣の同法人グループホームと合同で運営推進会議を開催し、各事業所の管理者が交代でテーマを取り上げて資料をもとに勉強会も行い充実した会議になっている。合同の夏祭りには地域住民の会場設営の手伝いや職員手づくり料理に介護学校の実習生も準備に参加している。夏祭りには、利用者も食事を楽しみながらカラオケや地域グループの日本舞踊を見て住民と交流している。実習生のほかに日赤病院研修医の見学もあり、利用者と会話を交わしている。定期的な通院には殆ど職員が同行し、主治医に利用者の状態を伝えながら必要な時は家族の同席で方針を確認し、食事の調理を工夫して可能な限り事業所でも対応している。開設14年が経過し管理者と職員は、利用者が地域の中でゆったりとした暮らしが継続できるように温かい姿勢で対応している。食事面では利用者の好みそうな料理を献立に取り入れられたり、出張握り寿司やデパートの「カニ飯弁当」を取り寄せて食の楽しみを豊かにしている。散歩や近くの店で買い物をし、季節の花見や白鳥を見に行ったり、岩見沢バラ園や天満宮例大祭などで外出が楽しめるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はホーム内に掲示しています。その理念を意識しながら日々業務をしています。	法人事業所共通の運営理念に地域密着型サービスの視点を入れて掲げている。利用者が不安になる時に職員は、寄り添ってゆったり過ごせるように理念を意識してケアを行っている。今後も理念を確認したり話し合う機会を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をする際、ご近所の方とご挨拶したり、お話ししたりしています。	事業所夏祭りのテント組み立てに住民の手伝いや、実習生が料理作りに参加している。近所付き合いで冬期にホームセンターの駐車場を借りることもある。今後は町内会回覧板の情報から活動などに利用者と参加できる機会を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症に対して理解が深まるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(年6回)運営推進会議を開催しています。	会議では運営状況や外部評価、防災のほか、資料をもとに熱中症、口腔ケア、認知症などのテーマで勉強会も行っている。地域代表や行政担当者より情報も得ている。家族にテーマ記載の会議案内を送付しているが、参加は得られていない。	会議に参加できない家族に、テーマなどの意見を具体的に引き出しながら会議に反映できる工夫に期待したい。また質疑応答の内容を整理して議事録を送る際に、勉強会などで使用した資料の送付も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護計画に必要な申請書類を役場窓口に出したり認定調査などで担当者の方とは密に連絡をとる機会があります。又、役場で行われる事業所連絡会議に極力出席できるよう努めています。	運営や変更手続きなどは本部で行い、管理者は介護認定に関することで町役場に出かけている。支庁から生活保護担当者が来訪した時には情報を伝え、電話連絡などで連携している。町主催の連絡会で情報を収集したり研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われておりません。玄関の施錠も日中は非常時以外せずに過ごしています。	本部で身体拘束等適正化指針を作成し、また委員会を設置して運営推進会議で報告している。職員は内外の研修で身体拘束禁止の具体的な行為を学び、拘束をしないケアを行っている。また不適切な言葉遣いについても話し合い、今後は勉強会の記録整備を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる危険性のあるケアについて日頃より職員間で話し合いながら自らの実践を検証するよう努めています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	役場主催の事業所連絡会議の場において研修会がありその資料・情報を職員間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にご本人、ご家族に重要事項の説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪された際に意見要望を聞いております。入居者様に何かあればその都度ご家族に連絡しております。	遠方の家族が多く、電話の際に状況を報告したり、介護計画書も郵送で同意を得ている。来訪時には家族の思いを把握し、連絡事項や家族の来訪を介護記録に記載している。毎月利用者ごとに通信を送り、暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は極力反映できるよう努めております。	全員で話し合う機会は難しく、当日の勤務者で話し合い、備品、福祉用具などの意見で管理者は本部に相談し早急に購入している。各職員の希望に沿って勤務表も調整している。今後会議での内容を数回に分けて共有し、記録整備を考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は各職員の声を十分に聴いてから作成しています。都合があればお互い様で臨機応変に勤務調整を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士の話し合いについては日々の業務の中で意見交換したり、問題が起きたときは会議を開催しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や内部研修に参加することで交流を図りケアの質を高めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活はご本人にとって不安でいっぱいです。その気持ちに共感しながら安心できる関係づくりのために努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の見学を通じて家族との関係づくりもできていると思います。ご家族から要望があればすぐに反映できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。特に他のサービス利用の必要は見られませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭き、もやしのひげ取り、洗濯物をたたむなど一人一人の能力に応じたお手伝いをお願いします。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時は、これまで歩んでこられたご本人の生活をお聞きするよう努めています。それに共感することでケアに反映させたいと思っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご兄弟など遠方からの来訪もあり懐かしく楽しい時間を過ごされております。	近所に住んでいた知人が年に数回来訪し、居室でゆっくり過ごしている。家族とドライブをしたり、スーパーでの買い物時に、他利用者に「おはぎ」などのお土産もある。職員と100円均一で好きなものを選んだり、菓子店で和菓子を買っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの輪の中に入っている感覚を、レクなどを通して持つ事ができていると思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的に相談、支援を行った事例はありません。個別に必要ながあれば応じて行いたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話を通じてご本人の思いをくみ取るよう努めています。	会話の中や、普段の様子を見て利用者の意向を把握している。課題分析シートに興味などの項目を追加して6か月ごとに更新しているが、アセスメント表を更新していないユニットも見られる。	ユニット共通の書式で、利用者の言葉から本人の暮らしの習慣や趣味・嗜好の内容を具体的に引き出し、利用者の意向を記録で共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中でどんな生活をしてきたのかお聞きしています。ご本人の歩んできた道に共感を持ちながらお聞きするよう心掛けております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態の把握に努めています。特に認知症状の把握に努め心穏やかに過ごせるよう支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の情報を共有できるよう日々の業務の中で務めています。各職員の声が介護計画に反映できるよう作成しております。	計画作成担当者を中心に職員の情報をもとにモニタリングを行い、6か月ごとに介護計画を作成し更新している。職員は「介護経過記録」に短期目標を意識して、支援内容の実施を主に記録し、変化や課題がある時には記入することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな事でも日々の申し送りをしています。それらを業務日誌や個別記録を記入し、勤務に入る職員が情報を共有できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせて、その時その時に必要な柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園へ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行っています。また、地域の秋祭りなどに参加する機会も作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の総合病院又は必要な治療に基づいた専門医療機関を利用しております。	1名の利用者は前からの往診医を継続している。殆どの利用者は職員の同行で栗山赤十字病院を病院している。受診で主治医の説明が必要な場合は家族も同席している。受診内容は「医療関係経過記録」に利用者ごとに記入し共有している。	

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に訪問しています。状態に変化があればその都度、相談しアドバイスをいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の中核医療機関である栗山日赤病院とは馴染みの関係であり専門的な治療が必要なときは密に連絡を取り受診しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明しご家族・ご本人より同意を得ております。	利用開始時に重度化や終末期の指針をもとに、対応が可能な内容を伝えている。定期的な通院で食事が摂れなくなる場合は主治医の判断で入院となるが、調理内容を工夫し可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から入居様の身体状態を把握し職員同士で話しあっております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。	今年度は消防署の下で昼夜を想定し避難訓練を実施しているが、住民の参加は得られていない。昨年の地震の際に冬季も含めて備蓄品を再確認して整備している。家具などの転倒防止をしているが、ケア別の対応は今後に考えている。	次年度の避難訓練には地域住民の参加も得て行うことを期待したい。非常災害時のマニュアルをもとに地震想定で各ケア場面での対応を職員間で話し合い、内容をマニュアルに追加する工夫に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様と関わる上では人生の先輩として尊敬の念をもち関わるよう努めています。心無い言葉かけをしないよう注意しています。	普段から馴れ馴れしい言葉かけをしないように指導し、個人的な話は居室ですしている。申し送りは本人に分からないようにイニシャルを使うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からのご希望や訴えがほとんどないのが現状です。ですので職員が気持ちをくみ取り意思決定することが多くなってしまいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自由な気持ちをできるだけ尊重し極力無理強いはいないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔さを優先しながらもご本人に合う色合いの服を選ぶなどして、少しでもおしゃれを意識できるような支援を行っています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物は何かご家族からお聞きして、お誕生日の献立に入れたりしています。いろいろ、盛り付けを工夫する、楽しく会話するなど楽しい食事の雰囲気作りに努めています。	利用者の状況に応じて献立の調理法を変更することもある。とうもろこしの皮むきなどの下拵えを手伝ったり、いなり寿司と一緒に作っている。出張握り寿司やデパートの「カニ飯弁当」を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日把握しています。摂取量の少ない方にはポカリスエット、コーヒー、アイスクリームなど口あたりのよいものを意識して提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。口腔内に異常が見られた際には、歯科医師と連携して治療しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のオムツ交換の方(全介助)、定時のトイレ誘導が必要な方など各利用者様の自立度に合わせた対応しています。	直接的な声かけをしないように配慮しながら、誘導が必要な利用者の排泄を記録してトイレでの排泄を支援している。時間帯や本人の身体状況に応じてポータブルトイレやベッド上での対応など、個々に応じて細やかな対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も服用しますが、できるだけ自然排便ができるようジュース、お茶、ヨーグルトなどを提供しています。またラジオ体操、レクリエーションなど体を動かす関わりをしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用するなどして、入浴を楽しめる支援を行っております。失禁された方はシャワー浴で不快感のないよう対応しています。	午後の時間帯で、一人週2回の入浴を支援している。利用開始時に本人や家族、以前の施設などに入浴習慣について確認することもある。入浴剤で湯船の色に変化をつけたり、同性介助などの希望に沿って楽しく入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい方には休んで頂けるようご本人の生活リズムに合わせて対応しています。また介護度が重度の御利用者様には離床時間を決めてリフレッシュして頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何のための服薬かスタッフ間で情報を共有しています。症状に変化があれば訪問看護師やかかりつけ医に相談しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、もやしのひげとり、テーブル拭き、下膳、洗濯物を畳むなど随時手伝って頂いています。			

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や入居者様の体調を見ながら近所周辺を散歩したり庭の東屋で過ごしたりしています。ご家族様が来訪されたときドライブに出る方もおります。	天気の良い日は、車椅子の方も一緒に近隣を散歩したり、ホームセンターで花を見て楽しんでいる。ドライブで長沼方面に白鳥を見に行ったり、岩見沢の毛陽町にあるリンゴ園などに出かけている。利用者の希望に応じて、個別の買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出来る方がいないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がきたとき、ご本人にも電話に出てもらいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	騒音もなく夜間も静かな環境です。家庭菜園を作り、室内にも植物を飾り季節を感じています。ホーム内に西日が強く入りますが、まぶしいと感じればカーテンを締めるなどの配慮を行っています。冬は乾燥しないよう加湿器の設置、各部屋に濡れたバスタオルをかけています。	居間と食堂が独立した広々とした造りで、壁には季節を感じる雛飾りの装飾がある。利用者の笑顔の写真からは日々の楽しさが感じられる。食卓椅子は、自由に方向転換ができる物を使用したり、利用者の状況に応じて危険が無いように座面が固定した椅子に交換するなど適切に対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くの時間は皆さん、居間で過ごされています。その時の気持ちに応じて自分のお部屋で自由に過ごす事もできます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族にとって馴染み家具や思い出の写真を部屋に置いています。	居室には備え付けのベッドとクローゼットがあり、身体状況に応じて介護ベッドも準備している。空気清浄器やテレビ、使い慣れた籐の椅子などを持ち込んでいる。好きなクッションを傍に置いたり、自分で購入した観葉植物を育てている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、浴室、廊下に手すりが設置されています。玄関には座れる長椅子と外に出るとスロープがあり安全に外出できるよう配慮しております。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里 B棟		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれがマイペースでゆったりと日々過ごして頂けるようにスタッフ一同取り組んでおります。食事に関しても毎食手作りで美味しい食事を提供出来るように心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0175800358-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成31年2月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人一人が理念を理解して日々の業務に当たっております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や非難訓練等で地域の方に参加頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は年6回。2ヶ月に一度のペースで行っております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂いております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりません。玄関の施錠も夜中以外はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者様の自宅や事業所内で虐待があるという話は聞かれておりません。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族に対し十分説明をしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪された際に意見要望を聞く機会があります。何か要望があった際には直ちに会社へ伝え対応しております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は極力反映できるよう努めております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修が行われ、参加する機会は何度かありました。内部研修も行われました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は地元他社との合同研修会が年4回行われました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴などを参考にしつつ、一人一人が安心できる関係づくりのために努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様からお話しを伺い、問題があれば解決に向け対応しております。また、日々の面会時等にもコミュニケーションをとり良好な関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。特に他のサービス利用の必要は見られませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理のお手伝いや洗濯物を畳むなどの、日常的な作業に参加して頂く機会を作り、生活に参加している意識を作る努力をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は定期的に来訪され、本人の様子を見て、お話しされたり、外出されたりしております。また、夏祭りやクリスマスの際には参加のご案内をしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪などによって、馴染みの人との関係は築けていけているように思います。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う方、合わない方の個人差がありますので席順等には気をつけております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられ退去された方のご家族が、近くに来た際には寄ってくださる方がおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて意向を把握しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人ご家族より聞き取り、普段の会話より把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方が出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がそれぞれの介護職員から御利用者様の情報を聞き取りをして作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別介護記録を記入し情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせて、その時その時に必要な柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や季節を感じられる場所などへ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行っております。また、地域の秋祭りなどに参加する機会も作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に皆様栗山赤十字病院に定期的に通っております。また、訪問で歯科受診も行っております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護職員が来ますので、今後のケア等について相談しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	皆様定期的に栗山赤十字病院で受診しており、常に健康状態を診て頂いております。入退院の際にはその都度病院側と連携しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族に対し十分説明をしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より職員間で事故の際の対応について話し合いをしており、迅速な対応をしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人に合わせた声掛けをしております。こちらの言葉使いには気をつけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人の思いについては日頃より聞き取りを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人がマイペースで日々生活しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみには気を付けております。外出前にはご自身に着る服を選んで頂いたりしています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の好み、嫌いな物を把握しております。また、お稲荷さん作りなど出来る時はお手伝いをして頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日把握して、意識的に水分が取れる支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた口腔ケアを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方については、一人一人の排尿の感覚を把握し、時間毎に声かけを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握しております。受診時に医師とも相談して薬の調整を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ全員が入浴拒否ですが色々工夫をして何とか週2回のペースで入浴して頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さん十分に休息できていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について、職員全員で理解し、飲み忘れや間違いがないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様それぞれの楽しみを把握しております。それぞれの方に合わせて退屈しないように支援しております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B棟に関しましては、現在自ら外出を希望される方はおりませんが、年間の行事として外出したり、ご家族等のご協力も頂き外出をされる事もあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	該当される方は現在はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	東京に居る息子様と週1回のペースで電話される方が1名おります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃により常に清潔であるように注意しております。トイレに関しては日々何度も汚れていないか確認します。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされたり、お部屋で過ごされたり、自由にされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や衣服など、極力本人の馴染みのものを使用できる工夫をしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に考えております。必要であれば即会社と連携し対応しております。自室に手すりを付けたり、絨毯を剥がしたり等々		

目標達成計画

事業所名 ほのかの里

作成日：平成 31年 2月 24日

市町村受理日：平成 31年 3月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者をより深く理解するために、これまでの暮らし方や趣味・趣向について詳細な情報を得ていない。	ご本人の思いや暮らし方の希望の把握に努める。	ご家族の面会時やお便りなどを通じてご本人の情報を収集しケアプランに記載する。	1年
2	4	運営推進会議の内容と取り組みがご家族に広く周知され活用されていない。	利用者サービスの実際と取り組み状況の話し合いをして評価検討する。	ご家族に運営推進会議の周知に努め利用者サービス向上につなげる。	1年
3	6	身体拘束をしない実践について理解を深める。	全職員が身体拘束をしない実践について研鑽する。	身体拘束の勉強会や日々のミーティングで検討した内容を記録する。	1年
4	35	火災避難誘導訓練の際、地域住民の参加が極めて少ない。	災害時(火災・地震・水害など)の地域住民との協力体制を築く。	火災避難誘導訓練を地域住民に事前に町内会を通じて周知して、近隣住民に参加していただくようにする。清掃活動など町内会行事に利用者と職員が参加し交流を深める様心がける。	随時
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。